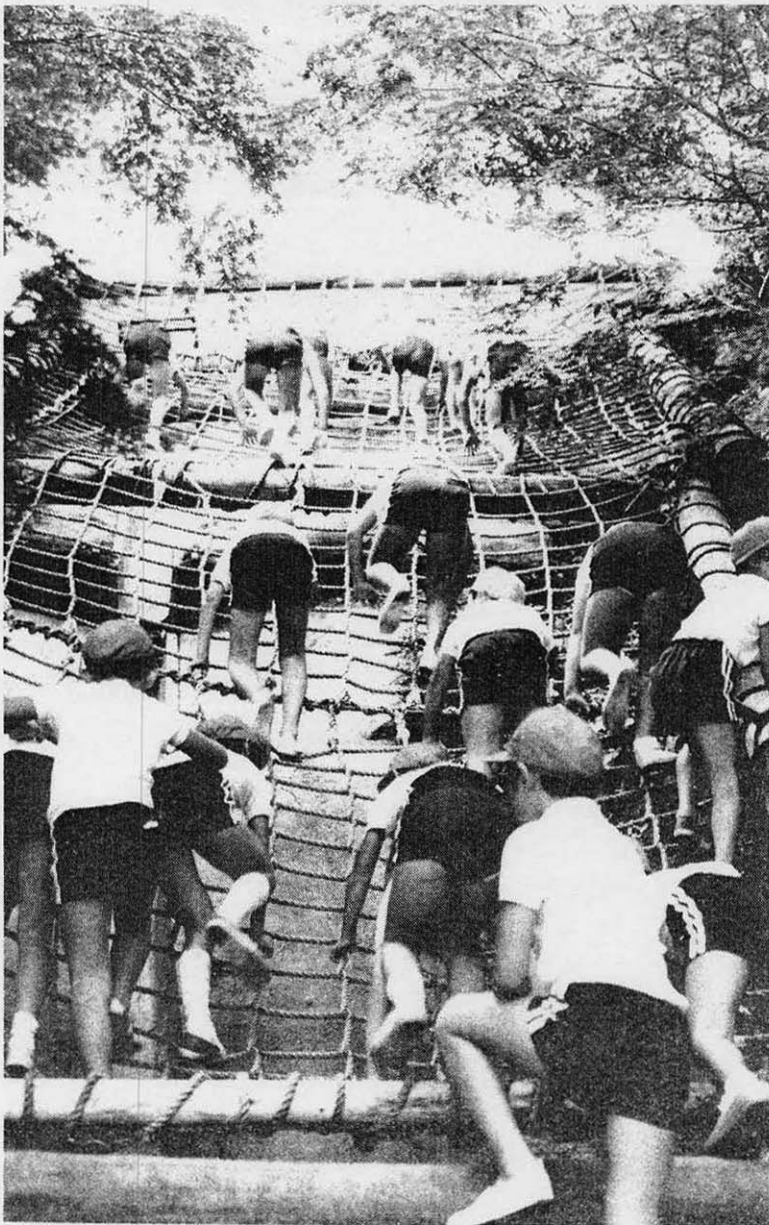


月報

# 岡崎の教育



9月号



(あみのぼりで体力づくり—愛宕小)

「よいしょ。よいしょ。」  
 かけ声をだしてのぼる。  
 のぼりあみのきょうそうだ。  
 わたしは、これで三回め。  
 「わあっ。」  
 あみのあなに、  
 右足がすべりこんだ。  
 「用心して、用心して。」

自分に言いきかせながら  
 のぼる。  
 えり子ちゃんが、  
 おいぬいていった。  
 だんだん足が重くなる。  
 いきが、くるしい。  
 汗がせなかをながれている。  
 頂上をにらんでのぼる。

昭和57年9月1日

編集 / 発行

岡崎市教育委員会



## ものいわぬ石

浅井 呀一

—教育随想—

岡崎小学校——しか出てないので——

以外に、わたしは学校教育についての思  
い出がない。手を取って教え導いてもら  
ったわが師といえ、岡崎小の伊野校長  
先生や、担任の加藤先生あたりにしぼら  
れてくる。むろん小学校を出てから成人  
するまで、あるいは成人後の社会生活に  
おいて、師と仰ぐ先輩や隣人は、いくら  
もある。しかし、教育の場での恩師は、  
小学校の先生がただだ。

そのあと上級の学校へでも進んでいれ  
ば、もっと多くの恩師を持った筈だから  
その幾人もの方々によって、小学校時代  
に受けた教化の影響は、あるいは薄めら  
れていたかも知れないが、わたしには、  
それが無い。ことによると、小学校の薫  
陶の影を、わたしは人一倍強く温存して  
いるうちの一人かも知れぬ。

人柄を形成する一番重要な要素は、そ  
の人の家庭と、少年期の学園で受ける薫

育にあると、わたしは心得ている。その

意味でよい家庭——上流だとか富裕だと  
かをさすのでなく——に生まれ、よい学  
園で育てられることは、人生何にも増し  
て幸せなことである。わたしはこの二つ  
とも、すばらしい条件のもとにはぐくま  
れてきたものと、いつも感謝している。

思い返すと、小学校のころ、わたしは  
よく先生に叱られた。褒められたことも  
ないわけでないが、回数でいえば叱られ  
た方ははるかに多かつた。叱られて、ひ  
とり運動場の隅で泣いたことだつてある。  
叱った先生を怨むよりは、叱られる自分  
の胼甲妻なさを、自分で歎いた筈だけれ  
ども、子供心にそのときは、先生を逆う  
らみしたことが、皆無だつたとはいえ  
ない。

しかし、後になって静かに振り返ると  
くすりになっているのは、褒められたこ  
とより叱られたことの方だつた。叱られ

る回数が多かつたことは、実はそれだけ  
多く、必要な業を授与されたことになる。  
校内暴力、わけても生徒が先生に腕力  
をふるうケースが、このごろ随処に頻発  
している。

むかし修身という科目があつて、わた  
したちの小学校では、修身を説くのは担  
任の先生でなく、校長先生の仕事であつ  
た。修身の時間だけはどのクラスへも、  
病院の院長回診よろしく校長先生みずか  
らが出向いてきて、懇々と人の道を説か  
れた記憶がある。戦後それが、何か間違  
つたことの如く解され、二宮金次郎の像  
とともに、修身は廃絶されてしまった。  
そのことが正しかつたかどうかは、大い  
に疑問である。

最近、メキシコから訪日した某大学教  
授という若い女史に会つた折、突然「仁  
・義・礼・知・信」の徳目について質問  
を受け、わたしはいささか面くらつた。  
何だかテストされてるみたいだつたが、  
女史はそれが日本国民の中にしつかり根  
づいていて、こんちの日本の、すばら  
しい国力になつていてと理解するらしか  
つた。

井上剣花坊という川柳家の句に、  
叱つても泣いてもくれぬ石となり

というのがある。亡母の墓前に頼いた  
ときの句だと思ふが、わたしは、この句  
に、母とともに恩師のおもかげを偲んで  
しまうのである。母も恩師も、いまはみ  
んな、ものいわぬ石になつておられる。

(名古屋博物館長)



## 南米の印象

大賀 真一

ブラジルからパラグアイへの移動の際  
にトランクが九個未到着というハプニン  
グがあつた。驚いて早速空港事務所に問  
い合はせたところ、

「多分明日着くでしょう。」  
というのんびりした返事。

離着陸が一時間や二時間の遅れは当た  
り前という土地柄だけに万事が悠長なも  
のである。

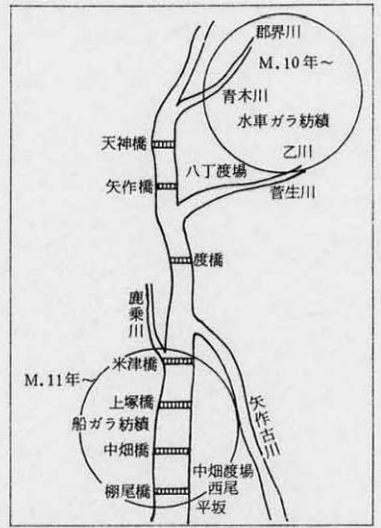
トランクは翌日ホテルに無事届けられ  
て、一時は青くなつた団員もほつと胸を  
なでおろした次第である。

★ ★ ★

パラグアイの十一月は夏の盛りで日中  
の気温は四十度近くにもなる。十二時か  
ら三時までは官庁も商店もシャッターを  
降ろして昼休みをとり、街の通りは人影  
もまばらである。

公園の木陰で大人たちがチェスに興じ  
ているので覗いてみると、ジュースのふ  
たを駒の代わりに並べていた。

公園の中を行くと、靴磨きの少年たち



—ふるさとの山河—  
矢作川 (6)

舟 紡 績

炊事の設備もあり、寝具類も積み込んであった。矢作川の流水を利用して水車を回すのだから、昼夜交替の通し作業である。女工は船の中に泊り込み、夜中カンテラの灯の下で操業した。

夏は屋形の戸障子を開放しておけば川風は心地よい涼を絶えず運んでくる。夜半汗のじんだ手拭を船べりですすぐと、手許近くで小魚がはねる。冬は戸障子を締めても北風がすき間から忍び込みたどんを埋めた箱火鉢を足もとに置いてもまだ寒い。そんな夜は「可愛い人に、着せたいものは、梅に鶯、竹に虎、サンサ、ヨーゴザンスー」と美しい声を張り上げて「ガラ紡船の作業歌」を唄った。船紡績は、昭和八年矢作川河川改修によって消滅してしまうのである。

(岩津中・中根俊忠)

ガラ紡船の操業風景



がぞろぞろと寄ってくる。見ればみんなはだしである。身なりは見すばらしいが、明るい表情が印象的であった。

(葵中)

西海岸見聞録

大竹光枝

坂の多いシスコ名物のケーブルカー。時間制限があるだけで、どこまで乗っても五十セント。気ままに乗って気ままに降りていく人々。

マーケットに入って、果物を買う。レジには長い列ができていた。レジ係が一人ひとりのお客に話しかけ、声高らかに笑いながら計算している。長い列ができる。イライラしているのは、我々日本人のみであった。

ロサンゼルスに住む兄夫婦の隣家では庭いっぱいにはガラクタを並べている。住人は、芝生の上ののんびりと寝ころんでいた。日光浴をかねて廃物を売っているのだそうだ。ガラクタでも、けっこう買手があるという。

とにかくゆったりリズムである。

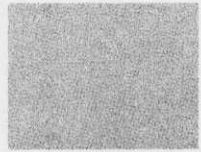
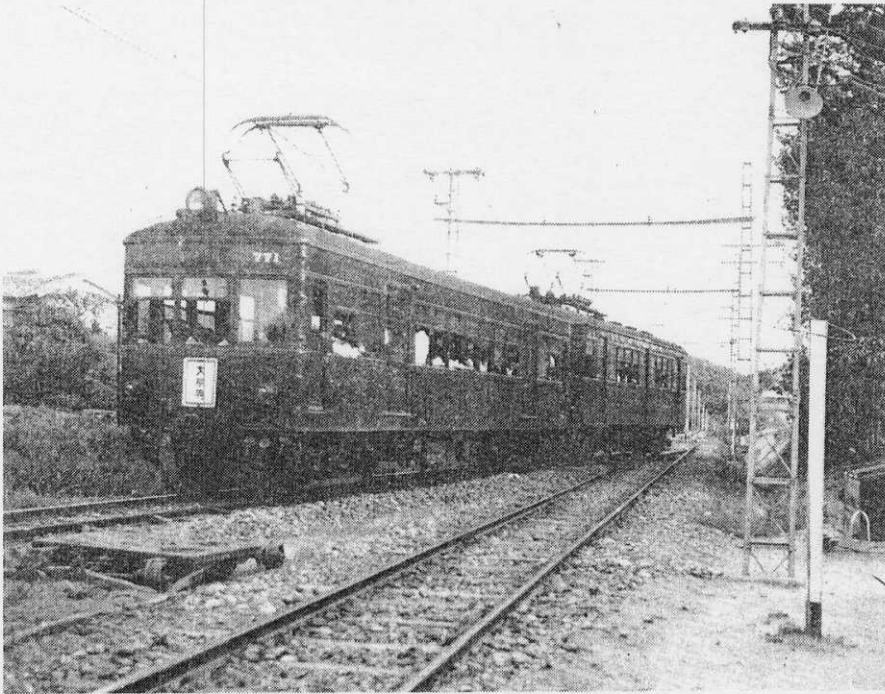
百メートル離れた家の庭先で見たものは、後手に縛られ倒れていた泥棒二人、メキシカンである。捕り物を見ることができた私の感激とやらはらに、

「ここまで犯罪が近づいてきた。」と、犯罪都市ロスに暮らす兄夫婦の言葉が返ってきた。この旅の最も印象に残るできごとであった。

(岩津小)



# 岡崎再見

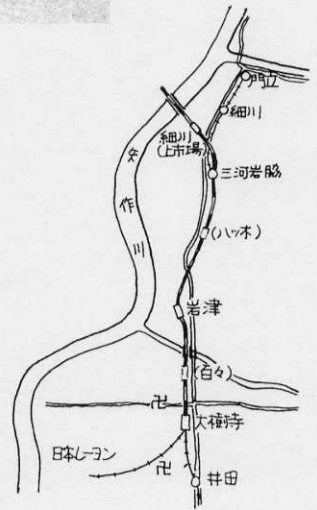


省線岡崎駅から殿橋まで軌道が敷設されたのは明治三十二年。その後鉄道施設ブームに乗って北へ北へと軌道は延長され、大正十三年には門立まで延びた。一方昭和四年に三河岩脇―上拳母間が開通し拳母線が誕生した。最盛期にはトヨタ関係者を中心に一日五千人を運んだというが、十年前の昭和四十八年三月三日、市内線に続いて合理化の鎗玉にさがり、廃線の憂き目に合わされたのである。

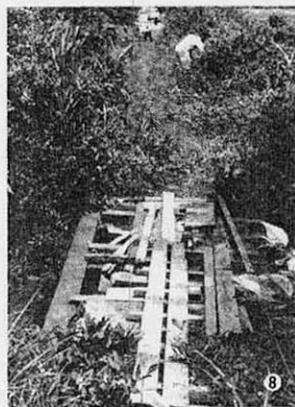
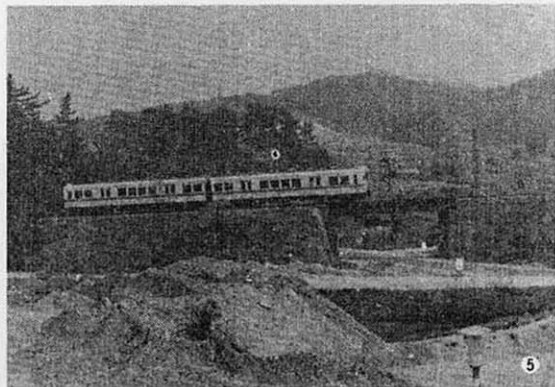
今にも降り出しそうな梅雨空の日曜日、市内に残る拳母線の跡をたどってみた。振り出しの大樹寺駅には、夏草に埋もれて市電との乗り継ぎのなつかしい階段が残っていたが、岩津の駅は造成工事で跡形もなく、ブルドーザーに倒された駅灯の鉄柱が無残であった。かつての軌道は、宅地になったり道になったりした所もあり、完全にはたどることはできなかったが、何とか往時の面影をしのぶことはできた。十年ひと昔というが、その変貌の激しさに感慨無量であった。

(往時の写真提供東海中市川満先生)

## 38 拳母線







- ① 荒れ果てた大樹寺の駅舎。
- ② 大樹寺から百々へ、歩行者道路として残った旧軌道敷。
- ③ 天神さんの日には多くの人でにぎわった岩津駅。往時の面影は全くない。
- ④ 岩脇駅は遠足でなじみの駅。駅舎の中は廃品回収の集積所になっていた。
- ⑤ 足助街道をまたぐ挙母線。
- ⑥ 今では北斗台団地の玄関口に昇格。細川駅付近。
- ⑦ 今では夏草に埋もれている。
- ⑧ 岡多線北岡崎付近から写したレコーンの引き込み線。前方車の通っている所が二四八バイパス。(昭46写)
- ⑩ 昔を偲ぶ心の中に生きている挙母線の残骸。(柴田鍾三氏所蔵)



# 教育日々



## 学級通信

「ふれあい」

東海中 山本 悟

「大人はずるいんです。大人は大きいです。私はずるい大人にだけはなりたくありません。大人はわかってくれません。私たちがわかってくれません。何もかもいやになりません。何もかもわかってしまいました。何もかもわかってください。何かもわかってください。大人は世間の目を気にしています。そういう生き物です。」

四月当初、グループ日記に書かれたK子の言葉。精神的にも肉体的にも揺れ動く中三時代。彼女の持つ大人への不信感は、どうすれば取り除いてやる事ができるのだろうか。

中学三年生を担任するのは、今年で三回目である。毎年変化しつつある生徒に、時には戸惑いながらも、人間の持つ素晴らしさに、何とか気付かせてやり

たいと、毎日悪戦苦闘している。本年度、先生と生徒、学校と

家庭との心のパイプ役として、

学級通信「ふれあい」を毎日発行してきた。内容は、グループ

日記に書かれた生徒の生の意見

や、それに対する私の感想等を

載せたものである。更紙半截ほ

どこにガリ切りをしたささやかな

通信ではあるが、生徒達は、意

外と期待して読んでくれている

ようである。特に、K子のよう

な意見を載せた場合、同感だと

言う者や、いやそれは違うと言

う者まで、生徒はいろいろを反

応を私に見せてくれる。それら

をそのまま学級通信で紹介した

り、私自身のコメントを加えたり

することにより、生徒は生徒

なりに、さらに大きな視野で物

事を考えられるようになってくるようである。

まだ一学期を終えたばかりで

あるが、先日の保護者会でも、

「この学級通信を話題に、今ま

であまり話さなかつた子が、今

よく話しかけてくれるようにな

つた。」

とか、

「わがままばかり言っていた子が、ずい分、親の気持ちを考えてくれるようになった。」

という話を、何人かの母親から

聞いた。今後、学級経営の一

つの大きな柱として、この「ふ

れあい」を続けていきたいと思

う。

「先生、もうそろそろやめるん

じゃない。」

という声に励まされながら……。

## 「楽」っていう字

どんな意味

六名小 野村こずゑ

一学期もあとわずかか。教材の進度は——。あわてて、教材を

進める。そんな時の漢字の学習

は、ついついおろそかになってしま

う。

「これは「考える」という字。

かんがえる。書き順は、一、

二、三、四、五、六だよ。い

い。はい、手を出して、一、

二、三……。」

「次は「後」という字……。」

「今度は「楽しい」という字……。」

と、次々進んでいく。

そんな時に、クラスでも元気

のいい雄一くんが、一言。

「先生、「楽しい」という字

木の上で小鳥が遊んでいるみ

たいだね。」

どきどきとした。子どものすば

らしいひらめき。そして、漢字

の成り立ちを教えずに、ただ形

だけを教えていた私への、厳し

い一言。

「ほんとだね。昔の人も「楽し

い」という字をさういうふう

に考えたんだよ。木の上で

小鳥が遊んで、ほんとに楽し

しそうなんだね。雄一くん、

すごいね。」

と、子どもの感性の鋭さにびっくりする私。自分は「楽」という字を見ても、そんなことを感ずる心もない。ああ、子どもの心のやわらかさ。急に授業が楽しくなってきた。

すると、他の子どもも口々に言っ

た。

「雄ちゃん、すごいノ天才。」

「楽しい」という字、雄

ちゃんのつくった字だね。」



「ほんとだ、ほんとだ。雄ちゃんの考えた字だから、先生、ていねいに書かなくっちゃね。」

急に他の子どもで、漢字に親しみを覚えたようだ。私もうれしくなった。

★ ★ ★

さて、後日、字源を調べてみると、なんと、私の思い違い。

「楽」という字は、台の上にある飾りのついた太鼓を描いた字であった。木の上に鳥がいるというのには「集」という字であった。

ああ、ほんとに私つてどじな

教師。さっそく、子どもたちに

本当の字源を教えなくては……。

これからは、子どもにも負けな

いように、字源を調べると、と

決意した。



おしらせ

# 南中女子バレー全国大会へ

## 陸上・水泳も十八種目出場

県大会・東海大会を通して優秀な成績をおさめた次のチーム及び個人が全国大会に出場した。

バレーボールは東京、陸上は松山、水泳は前橋で開催された。

▽バレーボール (8/22)

・女子……南

▽陸上競技 (8/22)

・男子

- 千五百 犬塚崇志(美川)
- 三種競技杉浦宏幸(美川)
- 千五百 寺澤隆志(南)
- 二百 松井昭宏(六ツ美)
- 千五百 神谷栄樹(矢北)

・女子

- 百 増田純子(竜海)
- 百 佐野順子(岩津)

▽水泳競技 (8/15)

〔寄贈刊行物・資料等〕

◆研究紀要 24号

岡崎市教育委員会 B5判

三〇〇頁

◆教員研修必携 57年度

岡崎・教職員の研修に関する委員会 変B6 六七頁

◆基礎学力の育成 研究集録第

二集

岡崎市立常磐小学校 A5

判 四八頁

◆算数はげみ表

岡崎市立岩津小学校 B5

◆たくましい体

岡崎市立連尺小学校 B6

判 一九三頁

で、第十回生徒市議会が行われた。市内十五校の生徒会役員代表が集まり、一日市議として活躍した。

第二体育館の建設、緑化活動、通学路など身近な問題をTPやスライドを使って真剣な質問や提案がなされた。

中でも高校新設問題や関連質問として出された市役所職員中卒者採用制度等については、中根市長より、「明るい見通し」との答弁を引き出す一幕もあり、充実した学習ができた。

### ■九月の研究発表校

- ・城北中学校 九月二十一日(火)
- 「自ら考え行動する生徒を育てる」―生徒活動の実践―
- ・大樹寺小学校九月二十八日(火)
- 「社会科・理科学習の深化をめざして」―効果的な視聴覚教材の活用―

### 第十回生徒市議会

#### 真剣な質疑

去る八月十二日岡崎市議会場

## 第35回岡崎市中学校市長杯総合体育大会兼西三河中学校選手権大会岡崎・額田支所予選会

昭和57年7月18・21～23・29日

### 市長杯総合成績

性別	優勝	2位	3位	4位	5位	6位
男子総合	甲山	葵	城北	竜海	矢作	南
女子総合	矢作	竜海	南	矢作北	東海	甲山
男女総合	矢作	竜海	甲山	南	葵	城北

### 昭和57年度岡崎市小学校球技大会並びに水泳競技大会成績

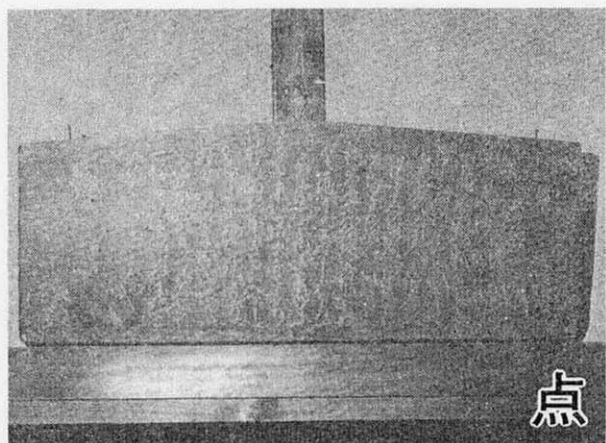
昭和57年7月22～24・30日

種目	性	優勝	2位	3位
軟式野球	男	矢作北	甲山	城北
ソフトボール	女	城北	幸田	南
ハンドボール	男	美川	六ツ美	城北
	女	六ツ美	美川	葵・岩津
軟式庭球	男	甲山	附属	矢作北
	女	矢作	東海	竜海
卓球	男	幸田	南	東海
	女	南	東海	香山
バレーボール	男	幸田	葵	矢作
	女	南	福岡	六ツ美
バスケットボール	男	美川	幸田	城北
	女	幸田	美川	竜海
サッカー	男	附属	南	岩津
剣道	男	幸田	矢作	葵
	女	幸田	海海	矢作
柔道	男	幸田	川竜	東海
	女	竜海	東海	甲山
体操競技	男	竜海	美川	南
	女	竜海	美川	南
陸上競技	男	美川	六ツ美	東海
	女	矢作	甲山	竜海
水泳競技	男	甲山	矢作	竜海
	女	矢作	竜海	甲山

種目	性	優勝	2位	3位
ソフトボール	男	細川	広幡	附属
	女	山中	広幡	連尺
バレーボール	男	竜美丘	山中	連尺
	女	竜美丘	羽根	六名
バスケットボール	男	細川	大樹寺	連尺
	女	大樹寺	愛宕	六名
サッカー	男	常磐	梅園	福岡
	女	矢南	井田	附属
水泳競技	男	大樹寺	矢南	根石
	女	大樹寺	矢南	根石



## 関山神社の高札



所在地—岡崎市藤川町中町北

藤川町関山神社には、六枚の高札文が保存されている。ともに、正徳元年（一七一二）五月に道中奉行の命を受け、宿場町の入口（現在の中町東端）に公示されたものである。

高札の最大のもは、横二三・八センチ・縦五三センチ・厚さ六センチの一枚板。流麗な達筆で書かれている。その種類は次の通りである。

- ・駄賃并人足荷物の次第
- ・駄賃并人足賃

●カ ッ ト 六ッ差申 中山敬子

- ・きりした宗門
- ・火を付ける者
- ・親子・兄弟夫婦を始め

・毒薬并似せ薬種売買の事  
宿駅の使命は、人馬継立を運搬することなく、荷物や文書の運搬に支障がないことである。

また、人の出入りが激しいため治安維持も大切であった。

一般の百姓・町人は、高札を読んでもらい、人々は見様身真似でこれを守ったのである。

## この本を

- 万葉流転 関根真隆 教育社 1,500円
- PET・親業 トマス・ゴードン 近藤千恵訳 サイマル出版会 1,300円
- いっしょうけんめい 永井次代著 永井道雄編 講談社 1,200円
- 男の生きざま 寺内大吉 ロングセラーズ 680円
- ガラスの肖像 阿刀田喬 講談社 980円
- 日本診断 松山幸雄 朝日新聞社 820円
- 峠から日本が見える 堺屋太一 実業之日本社 1,000円
- 女たちの遠景 三国一朗 潮出版社 980円
- ながい旅 大岡昇平 新潮社 1,200円
- 深海底で何が 起こっているか 小林和男 講談社 540円

「女と自由と愛」（松田道雄著）をテキストとしてPTA読書会。

五月、スタート以来、欠席者殆んどなし。内容が主婦にマッチしていて、意見も活発である。

最近主婦に時間の余裕ができ、教養講座等にも熱心に参加している。われわれ教師もがんばらなくちゃ。

暑中見舞、残暑見舞も出さずにはや九月を迎えた。あながち筆不精のせいではない。冷夏故なのだ。例年より受けるはがきも少ない。私と同じような想いの人もいるであろう。

空梅雨に始まり遅れ梅雨、台風、そして、集中豪雨と異常気象が続いた。これ以上異常な事態が起きないように願いたい。



暑さに負けず、実技講習会盛況。受講者は真剣そのもの。中でも目立って熱心で、ちよつと魅力的な若い女教師に目が留まる。あれ、彼女の髪に白いものが、そんな年ではないのに……よく見ると白ペンキ。炎天下での職員作業の証拠なのだと気づく。あれは岡崎の教育を支えている魅力なのだ納得。

ずい分早くとりかかったつもり宿題も、結局夏休みの終わりにやることになる。計画的に毎日少しずつやればそんなに苦しまなくてもよいのにと、母に言われたことを思い出す。二十年後の今も、原稿が締め切り日に間に合わず、必死に書いている。早く書き上げて楽になりたいと願いながら……。